

子宮頸^{けい}がんを予防するワクチンを知っていますか？



子宮頸がんは子宮の入り口にできる「がん」です

子宮には、妊娠したときに赤ちゃんが育つ「子宮体部」と、子宮の入り口で膣とつながっている「子宮頸部」があります。子宮頸部にできるがんを「子宮頸がん」といいます。子宮頸がんは、初期には症状がないことがほとんどで、不正出血などの症状に気づいたときには、がんが進行していることも少なくありません。

子宮頸がんの原因は、ヒトパピローマウイルス(HPV)への感染です

一般的にがんの原因は不明な場合が多いですが、子宮頸がんの原因は、ほとんどが「ヒトパピローマウイルス(HPV)」の感染によるものとわかっています。HPVは世界中でみられるごくありふれたウイルスで、ヒトの皮膚や粘膜に感染します。HPVの型は100種類以上ありますが、子宮頸がんに関係するのは約15種類といわれています。発がん性のあるHPVへの感染から、子宮頸がんの発生までには、通常、10年以上かかり、平均で20年程度とされています。

発がん性のあるHPVは、多くの女性が一生のうち一度は感染することのあるウイルスです。また、HPVに感染したからといって、必ず子宮頸がんになるわけではありません。

発がん性のあるHPVに感染しても、ほぼ90%は自然に消失します。発がん性のあるHPVへの感染が、長期的に続くことが危険因子です。また、発がん性のHPVへの感染だけでは子宮頸がんになりにくく、喫煙などの他の因子も重なるとより子宮頸がんになりやすいと考えられています。

子宮頸がんに関するHPVへの感染は、ワクチンで防ぐことができます

発がん性のあるHPVのうち、子宮頸がんの原因として最も多く報告されている16型と18型への感染については、ワクチンで防ぐことができます。子宮頸がんのワクチンは、日本では平成21年12月から接種が可能になりました。接種をお考えの方は、医療機関にご相談ください。

ワクチン接種後も定期的な検診が重要です

ワクチンでは、子宮頸がんの原因の主流である16型と18型のHPVへの感染を防ぐことはできますが、その他の型の発がん性HPVへの感染を防ぐことはできません。また、ワクチンの効果がどのくらい長く続くかについては、現在も調査が行われています。

子宮頸がんを予防するためには、ワクチン接種後も定期的な検診が重要です。

横浜市の取り組み（子宮頸がん予防ワクチンが無料で受けられます）

実施期間 平成23年2月1日～平成25年3月31日

実施対象者 中学1年～高校3年相当の女子

詳しくは横浜市保健所ホームページを御覧ください。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/hokenjo/>



参考 WEB サイト

ヒト-パピローマウイルス(HPV)と子宮頸癌等について（横浜市衛生研究所）

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/hpv1.html>

子宮頸がん情報サイト（GSK 株式会社） <http://allwomen.jp/>

子宮頸がん予防情報サイト（MSD 株式会社） <http://www.shikyukeigan-yobo.jp/>